|  |
| --- |
| ＜締めくくり総括質疑＞   * 幼稚園の預かり保育は待機児対策として進めるのではなく、在園の保護者のニーズのために頑張っている現場の声を聞きながら、子育て支援全体に対し必要な投資を増やしていくべきではないか。 * 本市の財政援助出資団体は多い。今まで民間ができなかったことを市と連携しながら取り組み、この間の社会資源の増にも寄与してきた。   それらを評価しながら、全ての財援団体で「子ども・子育て」関連事業を１歩進めること、団体同士で横に連携をすることで、「子ども子育て応援宣言の実体化」ができるのでないか。  財援団体が多い本市の特色を、強みとして生かせるのではないか。 |

【笹岡委員】　　お疲れさまでございました。まだ終わっていないのですけど、締めくくり総括ということで、先ほど藪原委員のほうから幼稚園のことについて、多分私が言った発言についてだと思いますので、意をきちんと説明しようと思います。

　私が申し上げたのは、幼稚園の預かり保育を待機児対策と、前面に押し出すのはいかがかということです。それでは２つ考え方があって、１つは、今現に長期の保育を、休みの間もしてくださっている園、もう一つは、それはできないけれども、５時や６時までやってくださっている園、この２種類があると思っているのです。

長期の休みにやってくださるところは非常に、もうお母様方の幅、選択の幅が相当広がっていると思っています。だけれども、もともとこの預かり保育というのは市もやってくださいねと言っていたことであって、幼稚園側は、これはほとんどの幼稚園がやって、預かり保育で６時ぐらいまで預かっておりますけれども、新しい人を雇って、保育という概念がなかったところを、それぞれの教育、こだわりの幼児教育を続けながら６時ぐらいまで預かっているわけです。

これは相当現場ではさまざまな思いがあって、しかしながら一生懸命取り組んでいるところだと思っております。その上で長期の、休暇中もできるような幼稚園、これがふえたら本当にいいことだなと思いますけれども、そこまでいかない、そんなことはもう全然、手いっぱいで本当に無理だというような現場の声もありますので、そういったところの現場の声もしっかりと聞きながら、これから子育て支援全体を一生懸命盛り上げていくにはどうしたらいいかというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

　質問いたします。**今回の決算特別委員会、１つテーマがありまして、それは財政援助出資団体でした**。

余りわからなかったかもしれないですけど、これはなぜかというと、この武蔵野市において、多くの財政援助出資団体がありますよね。これらが全て、そのそれぞれが子ども子育て分野に対して一歩、二歩、歩みを進めていって、取り組みを進めていってくださる、それでそこがまた横につながってネットワークをつくってくださる、そういったことが全体として大きな流れになると思っておりまして、これは子ども子育て応援宣言の実体化にもつながると、そういうふうな提案をさせていただきたくて、全体としてこういう質疑をさせていただいておりました。

　今までもこの財政援助出資団体、武蔵野は多過ぎるのではないかとか、そういったようなさまざまな指摘があったと思いますけれども、私はこれは、さまざま無駄を減らしていく努力、それは大切だと思いますが、それにも限界があると思っているのです。

そういったことは、この財政援助出資団体、民間ができないことをやってきてくださったということを高く評価して、またこの間のその頑張りによって社会資源が相当積み重なっていると思っています。

ここを、地域を支える人づくり、そういったことを子ども子育てにそれぞれが一歩進めていってくださって、横につながれば、これはとても、武蔵野市としても、**財政援助出資団体が多い、この強みを生かせるのではないか**なと、そう思っておりますけれども、お考えを伺いたいと思います。

【松下市長】　　財政援助出資団体間の連携や協力というのを進めて、適切な市民サービスの向上に引き続き努めてまいりたいと思います。

【笹岡委員】　　そんなさらっと言われると思わなかったのですけど、武蔵野のこの特色を生かす、そして子ども子育て、国も都も進めている子ども子育て支援を一歩進めるといった意味では、武蔵野ならではのこの力をせっかくだったら生かして、この皆様１つずつがやってくださっていることをまた進めていくことが大事なのかなと思っておりますので、その旨よろしくお願いいたします。　以上です。

|  |
| --- |
| ＜最終日の討論＞ |

【笹岡委員】　　皆様、お疲れさまでございました。会派「」を代表いたしまして、平成28年度の決算等に賛成の立場で討論させていただきます。

　28年は、「一人ひとりを大切に　文化をはぐくみ　未来につなぐ予算」として、一般会計で歳入709億円、歳出685億円と、過去最大規模を誇りました。その中には、市民文化会館の改修、新クリーンセンターの新築といった大きな事業がありました。こちらは２つともさまざまな意見があったようですけれども、大変評価をしております。

また、歳入におきましては個人市民税の3.9％増、人口及び世帯も増加しています。今後もこの流れをとめることなく、持続可能な自治体を目指していっていただきたいと思います。

また、この高い担税力に鑑みまして、武蔵野市としてしっかりとした行政サービスを行わなければいけないこと、一定程度のレベルを持って行政サービスを行わなければいけないこと、そして、この行政側の理念やメッセージ性、そういったものも求められていると思っています。

　次期長期計画策定においては、この長期財政予測の見直しも必要だと思っております。子ども子育て施策に関しては、これは推進することが結果的に社会に還元されて、自治体を支えることだと考えております。

このままよい健全財政を続け、少子高齢化を見据えて、今後も次の世代にツケを残さない、堅実な市政運営をしていただきたいと思っております。

　今回の決算においては、全ての財政援助出資団体に注目いたしました。

地域を支える人づくりの積み重ねをしていらした社会資源として考えてみると、子ども子育て及び地域に関することをそれぞれ進めていただくこと、そして連携し、ネットワークをつくっていただくこと、これが全体として大きなうねりとなって、子ども子育て応援宣言の実体化にもつながることだと思っております。また、本市の財政援助出資団体の多さを強みにすることもできると考えております。こういった意見を次の予算編成に生かしていただければと思います。

これで賛成討論を終わります。